

論文審査の要旨
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 (教育学)	氏名 Author	NOVTRYANANDA MARYANTI STEFANI GHUNU
学位授与の要件	学位規則第 4 条第①・2 項該当		
論 文 題 目 Title of Dissertation	Remote Area Teacher's Professional Development in Thematic Curriculum Implementation: Case Study at East Nusa Tenggara Province, Indonesia		
論文審査担当者 Dissertation Committee Members	主 査 Committee Chair 准教授 中矢礼美 印 Seal 審査委員 Committee Member 教授 馬場卓也 審査委員 Committee Member 教授 清水欽也 審査委員 Committee Member 齊藤英介 (モナシユ大学・講師) 審査委員 Committee Member H.Djam' an Satori(インドネシア教育大学・名誉教授)		
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review 本研究は、インドネシアにおいて新しく導入されたテーマカリキュラムおよびその実践のための教員研修の課題について、特に辺境地での課題を明らかにすべく、批判的教育学と地政学的視点から検討を行ったものである。 論文は、8章で構成されている。第一章では研究の背景、目的、課題を示し、第二章では教員研修、テーマカリキュラム、批判的教育学、地政学についての先行研究を検討した。第三章ではインドネシアの教育制度、カリキュラム変遷とテーマカリキュラムの特徴および教員研修の制度、第四章では研究手法について説明した。第五章では辺境地であるサブ島の教員が抱く教員研修の意義と課題についての意識、第六章ではサブ島でのテーマカリキュラム実践の課題を描いた。第七章では、テーマカリキュラムに関する教員研修は辺境地に勤務する参加教員に対して課題があることを明らかにし、第八章では、本論文の学術的意義の確認、研究の限界および今後の展望を示した。 調査では、辺境地に勤務する教員に対して従来の研修に関する質問紙調査、テーマカリキュラムの実践についてのインタビュー調査を行い、テーマカリキュラムに関する教員研修の参与観察と参加教員へのインタビュー調査を行った。その結果、テーマカリキュラムの実施方法やガイドラインで示されたモデルは、辺境地の社会文化状況に適しておらず、教員は多くの困難を抱えていること、従前の教員研修の課題であった授業案の開発や実践研修の欠落はテーマカリキュラムのための教員研修では解消されたものの、研修の内容は依然として辺境地の状況や教員のニーズに合っていないことを明らかにした。 本論文は、以下の諸点が評価された。1) カリキュラムや教員研修の歴史的変遷をまとめていること、2) 多様な方法を用いて実証的研究を行い、多くのデータを用いて議論を進めていること、3) 同一のオンライン教員研修を受ける都市部勤務の参加教員と比較を行うことで、辺境地勤務の参加教員に対する教員研修の課題を鮮明に描いていること。 なお、申請者はこれまで、国際ジャーナルの査読つき論文 3 編(うち 2 本共著、1 本単著)を公表している。 以上、審査の結果、本審査委員会委員は、本論文が著者に博士 (教育学) の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。			